



～対話について考える～

P4C = 子どものための哲学対話理論に学ぶ

☆2年7組のLHでの実践から

Q.なぜ、対話ですか？

本校で培っている生徒自らが主体的に学ぶ力＝自走力。しかし、そこには、生徒の自走を支える助走が必要です。

一人ひとりの生徒が自己決定し行動できるために、まずは「自分たち」で合意形成し、決定できる力を培いたいという思いで対話を大切にしています。生徒たちが心理的安全性を漢字ながら、リラックスして、自己開示している姿が印象的でした。



円形になり、教員も輪に入って対話しています。この日のお題は4月ということで LH クラス企画内容でした。

Q. P4C とは？

4つの柱を重視しています。

- ①コミュニティ…知的安全性
- ②探究…生徒たち自らの問い
- ③哲学…根本的な問い
- ④振り返り…対話の評価

☆コミュニティボールを使います☆



2年7組の生徒が作成したコミュニティボール。

このボールを回しながら話すことで、手に物がある安心感や他者からの視線が直接的でなくなり、心理的安全性が得られるという効果があります。

黄色い座布団は生徒が率先して製作してくれたそうです。

☆教員同士の対話 ～今年度挑戦したいことについて思いを出し合いました～



2年7組の実践について永田教諭から話していただいた後、参加者教員で、コミュニティボールを作りながら、「今年度挑戦したいこと」を語ってもらいました。

生徒の皆さんの学びと教員の学びが、相似形としてある、学びあう教員チームを目指していきます。

生徒と対話できる場としての PT 会議の場を創り出すことに挑戦してみたい！

「わかる授業」から「少し難しい」生徒のチャレンジのある考える授業への挑戦！